

共育の丘だより 第4号 2015秋

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はぐくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

巻頭言

早いもので、「共育の丘だより」第3号が出てから5ヶ月余りが経ちました。その間にあった、山口大学の教育に関係するいくつかの出来事をご紹介します。まず7月には、山口大学知的財産センターが、文部科学省の平成27年度教育関係共同利用拠点に認定されました。これは、知的財産センターが中心になって進めてきた山口大学の知的財産教育が評価されたことを意味し、それを全国の大学等に普及させようとするものです。

9月には、平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（事業名：やまぐち未来創生人材（YFL）育成・定着促進事業）の採択が決まりました。このプロジェクトでは、本学を含む高等教育機関、自治体、経済団体、民間企業など計58機関が連携し、地域社会が求める人材を育成する教育プログラムを構築・実践することによって、平成31年度までに高等教育機関の卒業生の県内就職率10%以上の向上を目指しています。大学教育センターは、各機関と連携して「教育プログラムの構築・実践」の部分に関わることとなります。また、今年は6年ぶりに大学機関別認証評価を受審しており、10月上旬に訪問調査が実施されました。今年度は、平成22年度から始まった第二期中期目標期間の最終年度でもあるため、これまで行ってきたさまざまな取り組みを分析・評価し、今後の方針を考える作業が進められています。

（朝日孝尚 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

- P1 巻頭言
- P2 大学教育センターの動き
- P3 YAMADAI NEW WAVE!
共育ワークショップ2015
- P4 広がれ、YC.CAMの輪！
追手門学院大学の方々との懇談会
- P5 教育改善学生交流
「i*See2015」参加記
- P6 学生FDサミット2015夏 参加記
- P7 シンポジウム「大学と学生」
&やまぐち探訪記
- P8 YC.CAMメンバー募集& 編集後記

【※本ニュースレターは、（公財）山口大学後援財団「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

大学教育センターの動き

FD・SDとは？

はじめに

FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

さらなる能動的学修（アクティブ・ラーニング）のために！

近年、大学において学生の汎用的能力が涵養されることが社会的にも求められており、アクティブ・ラーニングへの関心と期待が高まっています。YU-APでは、平成27年7月9日（木）にKEEPAD JAPANアクティブ・ラーニング研究会との共同企画として大人数授業、理系基礎科目を事例にしたFD・SDワークショップを開催しました。鍋山祥子 山口大学経済学部教授より200名を超える大人数授業でも「アクティブ・ラーニングシート」を活用したグループワークを行うことで学生同士の活発な議論を促すことができるという報告がありました。次に、新田英雄 東京学芸大学自然科学系 教授より、クリッカー実演を通して、アクティブ・ラーニングの有効性について報告がありました。最後にKEEPAD JAPANより、誰にでも簡単にクリッカーを活用した授業が行えるようになるための活用手順などの紹介がありました。

第二部では、林 透 大学教育センター 准教授のファシリテーションにより、グループワークセッションが行われました。「クリッカーや『アクティブ・ラーニングシート』は学生を授業に引き込む素晴らしい方法だ」などの意見が出され、全体で共有されました。本ワークショップでは、クリッカーを活用した講師と参加者のコミュニケーションが非常に活気に満ちたものになり、象徴的なアクティブ・ラーニングの場面を見ることができました。

アクティブ・ラーニングへの関心が高まるなか、活用が期待されるのが ルーブリックです。YU-APでは平成27年9月30日（水）にFD・SDワークショップ（ルーブリック作成）が、教員・学生の合同にてアクティブ・ラーニング教室（共通教育棟15番教室）を活用して開催されました。ルーブリックは、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがあり、ルーブリックを活用することでさらなるアクティブ・ラーニングの促進が期待されます。



山大職員発！！

キャリア学習会の開催！

平成27年7月3日（金）に第4回スチューデント・リーダー・プログラム（SLP）「ぶち教えちゃる！大学職員の仕事—大学職員の先輩に聞いてみよう—」が開催されました。

4回目の開催となるSLPは、57名（学生49名、教職員8名）が参加しました。定員を大きく上回る参加者となり、総合図書館アカデミック・フォレストの全面を使って行われ、重松 隆寛 教育支援課職員と東 真知子 情報企画課職員から話題提供があり、熱気と活気に満ちたものになりました。

YAMADAI NEW WAVE!

共育ワークショップ2015『みんなで山大的教育（共育）について語ろう！』



私達は**共育ワークショップ2015「みんなで山大的教育（共育）について語ろう！」**に参加させて頂きました。

まず初めに横浜国立大学大学教育総合センターの曾根健吾先生の基調講演が行われ、大学での学びについてお話していただきました。大学の学びを学生が変えていくというお言葉を受けて、**今までの自分達の学びへの姿勢を振り返り、これからは積極的に学びを作っていくように努力したい**と感じました。また基調講演の中でアイスブレイクを行い、それぞれのグループ内で自己紹介を行い、大学入学前の大学のイメージと入学後の実際の大学の状況について話し合いました。このアイスブレイクでそれぞれの意見を出し合い、お互いの意見に質問を述べることではじめの少し緊張した雰囲気が和らいだように思えました。また、この基調講演は次のグループワーク『**あったらいいな、こんな授業**』につながるお話でもあったのでグループワークの内容がすぐに頭に入ってきて、グループワークに移りやすかったです。

そして、この共育ワークショップのメイン、グループワーク『**あったらいいな、こんな授業**』は**学生、教職員と一緒に授業を考え出し、そのシラバスを作成してみよう**、というものでした。一つのグループに**立場も学部も異なる人々**が集まっているので、様々な観点の意見を聞くことができ、とても新鮮でした。特に他学部の方とはまだ交流することができますが、**教職員の方と一つのテーマに沿って意見交換をする**ということはこのような**機会**でなければ、なかなか体験できないことなので本当に勉強になりました。**立場が違うからこそ自分では見つけることが出来なかった側面を教えていただけるので、こういった場はやはり大切**だなと感じました。また機会があれば参加させていただきたいと思います。



[共育ワークショップ2015準備委員会メンバー]

図書館学生協働 相原 裕

図書館学生協働 辻本 葵

1日のタイムスケジュール！

日時：2015年9月28日（月）

場所：総合図書館 アカデミック・フォレスト

13:30～13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40～14:10 基調講演

「大学での学びを変える、学生が変わる」

横浜国立大学

大学教育総合センター助手 曾根 健吾

14:10～14:30 グループワーク・オリエンテーション

「シラバス設計の事始め」

14:30～16:30 グループワーク

『あったらいいな、こんな授業』

「みんなでシラバスを作成してみよう！」

16:30～17:20 全体発表

17:20～17:30 クロージング・閉会挨拶

17:40～18:30 情報交換会（懇親会）



教育改善学生交流 i*See2015 参加記



2

2015年8月27日(木)、28日(金)に岡山大学で第11回教育改善学生交流「i*See2015」が開催されました。「Let's Think about Globalization! ～学生にとって本当に必要なグローバル化とは～」というテーマを基に、全18機関から集まった学生・教職員など計84名が熱い議論を展開しました。

一日目は「グローバル化」とは何かを明確にするために全体議論を行いました。全体議論前半では、**大学における英語教育と留学について議論し、大学のグローバル化に対する取り組みについて考えました。**全体議論後半ではグローバル化で本当に求められていることと、実際に大学で行われている取り組みとの差異について議論し、**学生にとって本当に必要なグローバル化とは何か**を考えました。

二日目は、一日目のプログラム内容を踏まえた上でのグループ議論を行いました。グループ議論の内容は「**学生にとって本当に必要なグローバル化**」というもので、白熱した議論が行われました。グループ議論終了後は、各グループで議論した内容について報告会を行い、参加者全員で共有しました。

二日間の議論の中で、**参加者それぞれが「グローバル化」の定義付けに悩んでいました。**「学生にとって本当に必要なグローバル化」の定義を明確にし、また**大学側はそのサポートを充実させていくことが必要**なのではないかと感じました。

-
- タイムテーブル**
- <1日目(8月27日)>
- 13:00~13:30 開会式
 - 13:40~14:10 アイスブレイク
 - 14:30~17:00 全体議論
 - 前半：『大学のグローバル化に対する取り組みを考える』
 - 後半：『学生にとって本当に必要なグローバル化とは？』
 - 17:30~19:30 懇親会
- <2日目(8月28日)>
- 10:00~10:10 グループ議論趣旨説明
 - 10:30~13:50 グループ議論
 - 14:00~16:00 報告会・閉会式
-



[YC.CAMメンバー 古谷 晃一(農学部3年)、西尾 翔太(経済学部3年)]

参加者からのたより

様々な地方から学生、教職員の方々が集まりとても刺激的な2日間となりました。立場や環境が違えば考え方や課題もそれぞれ違います。そんなバラバラの人達が集まりグローバル教育をテーマに話し合い、「**グローバルって難しい言葉を撤廃しよう!**」という意見から「**ノングローバル目指そう!**」という意見まで。本当に立場や環境が異なる様々な視点からの鋭い意見が飛び交う場であり、刺激的な、そして貴重な経験となりました。

また、懇親会でも**それぞれの教員の方の裏話からFDの活動のお話まで、ぜひ山口大学にも取り入れたい!**と思えるようなお話も聞くことができました。ありがとうございました。

[YC.CAMメンバー 須藤 亜莉(国際総合科学部1年)]



学生FDサミット2015夏

参加記

2

2015年9月2日(水)、3日(木)の二日間、追手門学院大学で行われた「学生FDサミット2015夏」に学生4名、教員2名の計6名で参加してきました。テーマは「学生FDしていますか？～本当に大学が“よく”なっている！？～」であり、このテーマのもと64大学から500名近い学生、教職員が集まりました。

一日目はオープニングでサミットの趣旨説明があり、昼食後には**大学ごと(岡山大学、京都文教大学、芝浦工業大学&追手門学院大学、山口大学)の事例発表**、京都文教大学の村山 孝道氏、山口大学の林 透氏、創価大学の山崎 めぐみ氏、大阪大学の佐藤 浩章氏、追手門学院大学学生の木村 萌氏、教員の秦 敬治氏の6名によるパネルディスカッションが行われました。事例発表では私達はYC.CAMの活動紹介をさせていただき、パネルディスカッションでは主に**学生FD活動の多様化と専門性についての議論**を拝聴させていただきました。

二日目は二つのしゃべり場と**各大学アクションプランの発表、フィナーレ**が行われました。しゃべり場①ではまず他大学の教職員、学生との混合チームで「今後のFDはどうなるのか？」「私達が大学をよりよくするためには？」の二つのテーマで話し合いました。その後、しゃべり場②では各大学に分かれて「二日間の内容を通して感じたことの共有、自大学に持って帰るもの、これからの活動方針」を議論し、アクションプランを作成・発表しました。

フィナーレではアクションプランの作成・発表についての表彰が行われ、**私達のプレゼンテーションが見事表彰**されました。自分達で考え、作成したアクションプランが評価されたことは、これから活動していく中で大きな自信になると思います。

私達はこれまで授業を改善するために働きかける相手として常に教職員を意識してきました。しかし、**もっと学生にも目を向け、サミットに参加したことで刺激を受けた私達が周囲の学生に「Animate(命を吹き込む)」ことが大切だ**と考え、YC.CAMの意識表明としてサミットで強く主張してきました。

サミットで学んできたことを参加していないメンバーや山口大学の学生・教職員に向けて情報発信を行い、**学生・教職員が三位一体となって大学を“よく”していきたい**と思います。

[YC.CAMメンバー 藤坂 勇汰(経済学部3年)]



参加者からのたより

私がまず驚いたのは、「大学を“よく”しよう」と考えている学生、教職員がこんなにたくさんいるのか、ということでした。サミットを運営していたのも、自分と同じ学生。自分の周りにはたくさんの学生、職員がいるのだということを改めて実感させられました。**それだけたくさんの学生、教職員がいるということは、たくさんの取り組みや視点、考え方があるということ**。他大学の事例発表、パネルディスカッションではそのことを強く感じました。

またFDという言葉の定義が多様化しているなかで、**自団体は何ができ、何をすべきか**。しゃべり場ではこのことを強く感じました。本サミットで学んだことを**自団体、ひいては学生生活に生かしていきたい**と思います。

[YC.CAMメンバー 江角 寛(経済学部2年)]



シンポジウム「大学と学生」

学生による学生支援～ピアサポートの理想と現実～



2

2015年9月7日（月）に広島大学高等教育研究開発センター主催 第2回シンポジウム「大学と学生」に参加しました。ピアサポートに関係する教職員・学生が各地から参加し、白熱した議論がなされました。

はじめに、ピアサポートを専門とする教員から基調講演が行われ、「『ピアサポート』とは何か？」「ピアサポートの理想と現実」について報告を受けました。大学教育における学生支援の必要性を感じるのと同時に、ピアサポートの抱える課題が浮き彫りになりました。

次に、東北大学、広島大学、山口大学による事例報告が行われました。東北大学学習支援センターSLA（Student Learning Assistant）は、「ともそだち」の理念を掲げ活動しています。ピアサポートの内容は院生・学部生による学習相談でした。広島大学のPSR（Peer Support Room）は「学生による・学生のための・何でも相談室」の理念を掲げ活動しています。ピアサポートの内容は履修相談・生活相談が中心です。山口大学YC.CAMは今年5月に開催した「第3回SLP YC.CAMメンバーによる学習相談会」について報告を行いました。

次に、主催者より各報告に対する疑問やピアサポートの広がりに対する問題点が指摘され、次のパネルディスカッションに向けて話題提供がなされました。パネルディスカッションでは、「ピアサポートが求められる背景・理由」「学生への教育、助言、指導の第一義的責任は誰なのか」「大学生版学習塾は発達するだろうか」「支援が必要な学生と、支援を受けている学生は一致しているか」「草の根的ピアサポート活動があればぜひ（外部社会との連携）」などが議題として挙げられました。

今回のシンポジウムに参加して、ピアサポートの重要性や必要性を強く感じました。大学側と一体となって体制づくりを行うため、私が感じたことを大学に持ち帰り、他の学生と共有し理解を深めたいと思いました。

[YC.CAMメンバー 井本 圭祐(理学部2年)]

「ピアサポート」とは…？

学生が支援者として学生支援に携わる取り組みのことである。現在4年制大学では、そのニーズの高まりをみせ、実施大学は増加傾向にある。

（活動例）

- ・院生・学部生による学習相談
- ・新入生キャンプ
- ・履修相談
- ・就活サポーター
- ・寮長会（生活相談）
- ・留学生オフィスアワー
- ・障がい者支援
- ・ひきこもり学生の支援 など

やまぐち探訪記 第四回 （防府）

この夏、山口市に隣接する防府市に初めて足を踏み入れてみました。かつては、三田尻と呼ばれ、萩へと繋がる「萩往還」の玄関口として栄えました。江戸時代の幕末期には、高杉晋作が功山寺拳兵後の海軍画策のために、この地を訪れています。

山口大学との縁という点では、戦前に、教育学部の前身である青年師範学校が設置され、戦後、1960年代まで、教育学部防府分校があったことは記憶に留めておくべきでしょう。防府市中心部の桑山のふもとの現・桑山中学校の運動場脇には、青年師範学校及び教育学部防府分校の石碑が建てられています。



防府天満宮をはじめ、明治維新後、旧藩主・毛利家が居を構え、その威厳を今に残す毛利庭園、幕末の7卿落ちの居留地となった英雲荘、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公・楢取素彦・美和子夫妻が眠る大楽寺など、魅力ある史跡が点在しています。ぜひ、防府のまちを堪能してみたいはいかがでしょうか。やまぐち探訪の旅は、まだまだ続きます。





大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
foru-h@yamaguchi-u.ac.jp
杉元 茜(代表代行)
s040df@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>



YC.CAMのページはこちら



<https://www.facebook.com/yamadaiFD>

編集チーム

林 透
(大学教育センター准教授)

河島 広幸
(大学教育センター助教(特命))

河口 美由紀
(YU-AP推進室)

杉元 茜
(理学部4年、YC.CAMメンバー)

福屋 里紗
(教育学部4年、YC.CAMメンバー)

発行:
大学教育センター
(2015年11月17日 発行)

! 編集後記 !

創刊号から編集に携わり、いつの間にか第4号!そして卒業も近付いています。もう少し、“真面目にふざけて”楽しんでいきます!

杉元

リーダーの編集技術に感動してばかりでした!卒業まであと少しですが、これからもYC.CAMの活動を支えていけるようがんばります!

福屋

第4号よりニュースレターの編集に携わせて頂く事になりました。楽しく読んでいただけるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

河口

大学教育は、大学教職員、学生、地域をつなげます